

各位

鉄道事業の旅客運賃改定申請について

遠州鉄道株式会社（本社：浜松市中区 社長：丸山晃司）は、本日10月31日付にて国土交通省中部運輸局宛に2024年4月1日から実施予定の鉄道事業の旅客運賃上限変更認可申請を提出いたしました。

申請理由および申請概要は下記の通りです。

記

1. 申請の理由

当社の鉄道線は、地域の皆様に支えられながら、バブル崩壊やリーマンショックなどの困難を乗り越え、安定的に事業を運営してまいりました。

2020年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者数が減少し、非常に厳しい状況となりましたが、そのようななかでも、安全確保対策は最重要であると判断し、八幡駅のバリアフリー・耐震補強工事等、必要な設備投資を継続いたしました。一方で、それらの投資を確実に実行するために、2022年2月には消費税率引き上げに伴う改定を除き39年振りとなる旅客運賃改定を実施いたしました。（改定率3.9%）

しかしながら、2022年度は、物価高や外注工事費の高騰に加え、鉄道事業における大きな要素である電気料金の急騰という事態が発生いたしました。これらに伴う営業費用の増大は、2022年2月実施の運賃改定による事業収益増加額を大きく上回る水準であり、結果として、当社の鉄道事業は、前年に引き続き、2022年度も赤字となっております。

今後も、2011年から事業着手し2028年度まで継続する第I期高架橋耐震補強工事、駅のバリアフリー化、省エネ型車両への転換の検討を含めた車両更新等の投資に加え、物価や電気料金は高止まることが見込まれ、今後の事業見通しは大変厳しいものと捉えております。

また、人手不足時代のなかで、働き手の確保が喫緊の課題となっております。長期的に安全かつ快適なサービスを提供し、適正な要員体制を確立し続けるためには、従業員の処遇改善も必要不可欠です。

つきましては、地域の足を担う鉄道として、必要な安全投資を適正に実行し、利用者にとって快適な輸送水準を維持するべく、今般の旅客運賃改定の申請に及んだ次第でございます。

2. 上限運賃の申請内容

(1) 運賃の認可制度について

鉄道事業の旅客運賃は各事業者の「上限運賃」を国土交通省が認可する「上限認可制」となります。各事業者は認可された上限運賃の範囲内で届出により「実施運賃」（お客様から実際に収受する運賃）を設定することができます。当社の現在の「実施運賃」は「上限運賃」と同額であり、認可後につきましても同額の設定で届出をする予定です。国土交通省の認可が下りた時点で改めてお知らせいたします。

(2) 申請の概要

- ① 申請日 2023年10月31日
- ② 実施予定日 2024年4月1日
- ③ 改定内容

i. 【改定率】

定期外	定期			合計
	通勤	通学	計	
9.7%	17.6%	5.7%	13.2%	11.0%

ii. 【現行・申請運賃比較表】

○普通旅客運賃（定期外）

- ・現行 140円～250円（0km～8.0km）区間を一律20円加算
- ・現行 280円（8.1km～）以上の区間を一律30円加算

営業キロ	現行運賃（円）	申請上限運賃（円）	運賃差（円）
0～4.0	140	160	20
4.1～5.0	170	190	20
5.1～6.0	200	220	20
6.1～7.0	230	250	20
7.1～8.0	250	270	20
8.1～9.0	280	310	30
9.1～10.0	300	330	30
10.1～11.0	320	350	30
11.1～12.0	350	380	30
12.1～13.0	370	400	30
13.1～14.0	390	420	30
14.1～15.0	420	450	30
15.1～16.0	440	470	30
16.1～17.0	460	490	30
17.1～18.0	480	510	30

○定期旅客運賃

通勤定期旅客運賃（大人1か月）

営業キロ	現行運賃（円）	申請上限運賃（円）	運賃差（円）
0～3.0	5,760	7,110	1,350
3.1～4.0	6,210	7,110	900
4.1～5.0	7,100	8,440	1,340
5.1～6.0	7,990	9,770	1,780
6.1～7.0	9,320	11,100	1,780
7.1～8.0	10,650	11,990	1,340
8.1～9.0	11,090	13,770	2,680
9.1～10.0	12,420	14,660	2,240
10.1～11.0	13,300	15,540	2,240
11.1～12.0	14,190	16,880	2,690
12.1～13.0	15,070	17,760	2,690
13.1～14.0	16,410	18,650	2,240
14.1～15.0	17,290	19,980	2,690
15.1～16.0	18,180	20,870	2,690
16.1～17.0	19,070	21,760	2,690
17.1～18.0	20,390	22,650	2,260

通学定期旅客運賃（大人1か月）

営業キロ	現行運賃（円）	申請上限運賃（円）	運賃差（円）
0～3.0	3,880	4,320	440
3.1～4.0	4,190	4,320	130
4.1～5.0	4,780	5,130	350
5.1～6.0	5,380	5,940	560
6.1～7.0	6,280	6,750	470
7.1～8.0	7,180	7,290	110
8.1～9.0	7,470	8,370	900
9.1～10.0	8,360	8,910	550
10.1～11.0	8,960	9,450	490
11.1～12.0	9,550	10,260	710
12.1～13.0	10,160	10,800	640
13.1～14.0	11,050	11,340	290
14.1～15.0	11,650	12,150	500

15.1～16.0	12,250	12,690	440
16.1～17.0	12,840	13,230	390
17.1～18.0	13,740	13,770	30

※通学ウィークデー定期券は通学定期旅客運賃に5/7を乗じて得られた額とする。
(10円単位に切り上げ)

3. 鉄道部門収支の実績および推定 (単位：千円)

	2022年度 (実績)	2024～2026年度 (3年間平均)	
		現行	改定後
収入	1,553,121	1,625,968	1,792,111
支出	1,710,445	1,838,051	1,838,051
差引損益	▲157,324	▲212,083	▲45,940
収支率	90.8%	88.5%	97.5%

※収入には特別利益が含まれておりません。また、支出には特別損失が含まれておりません。

4. 運賃収入内訳 (単位：千円)

	2022年度 (実績)	2024～2026年度 (3年間平均)	
		現行	改定後
定期外	912,245	955,217	1,047,971
定期	536,938	557,648	631,036
合計	1,449,183	1,512,864	1,679,008

5. 需要見通し (単位：千人)

	2022年度 (実績)	2023年度 (推定)	2024年度 (推定)	2025年度 (推定)	2026年度 (推定)
定期外	4,347	4,431	4,491	4,563	4,635
定期	4,193	4,228	4,383	4,478	4,573
合計	8,540	8,719	8,874	9,041	9,208
前年比	109.8%	102.1%	101.8%	101.9%	101.9%

6. 設備投資実績・計画

(1) 設備投資実績と計画

(単位：百万円)

	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (推定)	2024年度 (推定)	2025年度 (推定)	2026年度 (推定)
安全対策	311	290	163	170	564	676	429
サービス改善等	53	26	393	33	22	145	40
合計	364	316	556	203	586	821	469

(2) 主要プロジェクトの内容

① 第Ⅰ期高架橋耐震補強工事（継続事業）

当社の鉄道線はおよそ3分の1の区間が高架化されておりますが、1985年の供用開始から30年を超える第Ⅰ期高架区間では、大規模な地震が発生した際の安全確保のため2011年から継続して耐震補強工事を進めております。現在までに約20億円を投じて7割を超える橋脚が耐震化されておりますが、残る橋脚に対しても速やかに耐震補強工事を実施する必要があるため、完了に向けて計画的に進めてまいります。

② 駅のバリアフリー化

お客様が快適にご利用いただけるよう、高架駅へのエレベーター設置による段差解消のほか、バリアフリースイレやホーム転落防止柵の設置など、駅のバリアフリー化を推進しております。2022年度には八幡駅のバリアフリー化が完了いたしましたが、未だバリアフリー化が達成できていない駅もございます。安心してご利用いただける駅の実現に向けて、地域行政とも連携しながら引き続き進めてまいります。

③ 車両更新

老朽化した車両の置き換えと省エネルギー化のため、定期的に車両を更新しております。車両更新により、信頼性を高め、輸送の安全性向上を図るとともに修繕費を抑制し、消費電力を抑えることができます。また定期的な車両更新は、投資額の平準化となり経営の安定化につながります。現有車両においては、基本的な構造設計が作られてから長い期間が経過しておりますので、今後は更なる安全確保と省エネルギー化のため、次世代型への変更も具体的に検討し、車両更新を進めてまいります。

7. これまでの経営合理化の状況及び今後の取り組み

2020年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、運転士・車掌・駅員の業務複合化や鉄道駅の無人化、駅窓口営業時間の短縮など、運用体制の合理化を図ってまいりました。また、昨今においては電気料金高騰への対策として、照明設備のLED化や運転時の消費電力量を抑制する取り組みを実施しております。今後につきましても、事業運営の合理化を継続して実施してまいります。

また、昨今公共交通事業における人手不足が深刻な社会問題となっており、この問題は当社の鉄道事業においても例外ではありません。地域交通を維持していくためには適正な要員体制の確立が必要不可欠であり、働き手の確保は喫緊かつ重要な課題であります。将来に渡って安全かつ快適なサービスの提供を維持していくために、従業員の処遇改善を図ってまいります。

8. 運賃・料金の多様化の内容

① 12 か月定期券の新設

2024年4月1日より、新たに12か月定期券のサービス開始を予定しております。定期券の更新が1年に1回となり、お客様が更新のために発行窓口にお越しになるご負担の軽減を図ります。12か月定期券につきましては、当社路線バスにおきましても同時にサービス開始を予定しております。

9. 利用者サービスの向上策

① 駅施設のバリアフリー化の推進

高架駅でエレベーターが設置されていない駅から優先的にバリアフリー化を推進し、安全対策としてホームの嵩上げや転落防止柵の設置を行ってまいりました。また、エレベーター・エスカレーター等の正常な稼働には定期的なメンテナンス作業が不可欠であるため、適正な設備の維持管理を実施して、お客様に安心してご利用いただける駅を目指し旅客サービスの向上を図ります。

② クレジットカード等のタッチ決済導入

遠鉄電車・バスにおいては、Suica・Pasmo等の交通系ICカードに対応しておらず、当社独自のICカード「Nice Pass」または現金以外で運賃精算ができないため、特に国内外からの来訪者の利便性に課題を抱えております。

この度、三井住友カード株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：大西幸彦）が提供する公共交通向けソリューション「stera transit」を活用し、タッチ決済対応のカード（クレジットカード・デビット・プリペイド）や、カードが設定されたスマートフォンなどによるタッチ決済を導入いたします。

当社では一部の路線バスから順次導入を進め、鉄道線においては2024年度の導入を計画しております。

③ 定期券のネット予約サービスの提供

新規定期券・継続定期券について、Webページ上で事前に予約・決済を完了して、窓口での手続きを省略または簡略化するサービスをご提供しております。事前に予約・決済を済ませることで、窓口での発券にかかるご利用者様のご負担軽減を図っております。

10. お問い合わせ先

(1) 本件に関するお問い合わせ

遠州鉄道株式会社 鉄道営業所 TEL053-435-0221
(平日・土曜日 9:00~18:00・日祝 9:00~17:00)

(2) 遠鉄電車ホームページ

<https://www.entetsu.co.jp/tetsudou/>